

保健医療学部柔道整復学科のディプロマ・ポリシー

保健医療学部柔道整復学科では、医療人としての倫理観を持ち、人から常に信頼される高い教養、知識と技術を携え、かつ現代医療と伝統医療に精通した柔道整復師を養成する。

本学科ではこの目標に基づき、次のような知識を身に付け所定の単位を修得した者に学士（柔道整復学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- (1) 医療人の基盤となる高い教養を身につけている。
- (2) 医学・医療に関して高度な知識を有し、様々な情報を基に判断し、身体の状態を理解することができる。
- (3) スポーツ医学に関して幅広い知識を有し、スポーツ・運動時の身体の状態を理解することができる。

2. 思考・判断

- (1) 柔道整復師の業務範囲となる外傷に対しての適応と禁忌を思考・判断できる。
- (2) 外傷に対しての適切な施術方針に基づいた治療を行い、施術の効果を客観的に判断できる。
- (3) スポーツ選手の外傷・障害にして適切な管理を行い、指導することができる。

3. 関心・意欲

- (1) 常に進歩する医療と変化する社会情勢に対して平素より興味・関心を持ち、情報を収集する意欲・態度を備え、生涯を通して自らを高めることができる。

4. 態度

- (1) 医療人として人々を思いやる心を持ち、手を差し伸べることができる。
- (2) 柔道整復分野に常に誇りと責任を持って社会に貢献することができる。

5. 技能・表現

- (1) 多様な状況に応じて適切な柔道整復技術を安全に用いることができる。
- (2) 医療人として良好なコミュニケーションがとれ、患者に信頼される行動ができる。

保健医療学部柔道整復学科のカリキュラム・ポリシー

保健医療学部柔道整復学科では、学位授与に必要とされる能力（ディプロマ・ポリシー）を修得するために以下の方針で教育課程を編成する。

1. 初年次から医学教養を含む教養教育を実施し、医療人としての幅広い教養と豊かな感性を備えるとともに高い倫理観を持つ人間性を育む。
2. 自ら探求すべき課題を提起して問題解決に取り組む主体性を身につける。初年次から問題解決型の能動的学習により、問題を解決する能力を養う。
3. 基礎医学、臨床医学の幅広い知識を身につけるため、初年次から現代医学の教育を導入するとともに、本学の特色を活かした幅の広い現代医学の科目群を配置する。
4. 柔道整復学の根幹となる知識と技術を修得するための科目を各年次にバランスよく配置するとともに、より臨床的・実践的な知識と技術を身につけるための科目群も配置する。
5. スポーツによって生じる外傷、障害を適切に判断、処置、予防するために、スポーツ医学とスポーツケアに関する幅広い知識と技術を修得するための科目群を配置する。

本学科の教育課程は、教養系科目として『人間と社会』、『自然の科学』、『言語と情報』、『医学教養』の各分野に区分し、また、専門系科目として『柔道整復と柔道』、『現代医学』、『柔道整復学』、『実践整復学』、『健康とスポーツケア』および『卒業研究』の各分野に区分する。

上記カリキュラム・ポリシーを実現させるため、それぞれの分野に必要な科目を配置し、以下のように教育課程を構成する。

① 教養系科目

教養系科目では、『人間と社会』、『自然の科学』、『言語と情報』および『医学教養』に区分し、1年次を中心に医療人として倫理観と幅広い教養を修得できるような科目を開設する。

『人間と社会』では、初年次教育として大学教育を受ける上で必要となる基礎知識の修得を目的とし、必修科目として「現代国語読解」、「学習技法」を開設する「大学の教育と研究」では、大学で求められる教育と研究を理解する。とくに本学の建学の精神、教学の理念、沿革、教育目標を理解し本学学生として求められる学修態度と姿勢を養う。「心の科学」、「コミュニケーション論」では、心豊かな医療人として、患者の心理を可能な限り理解し、医療現場で必要となるコミュニケーションの方法を学修する。また、キャリア教育として、

「キャリアデザイン」を配置し、柔道整復師として働くために必要となる倫理的思考や社会に関する基礎的な知識と科学的思考力を高める。「伝統医学の歴史と哲学」では柔道整復学を含む世界の伝統医学の歴史を学びその根底にある医学的な考え方を学ぶ。「生活と環境」ではエネルギー問題を含む環境問題について学ぶことによって地球レベルでの問題について考える力を養う。

『自然の科学』では、医療を実践する上で必要となる人体の構造と運動に関する力学特性、人体に関わる生物現象、環境問題に関わる化学、課題解決に必要となる統計的手法等を理解するため、「生き物の科学」を必修とし、「物質と自然の科学」、「物質の反応」、「データ解析法」を選択必修科目として開設する。

『言語と情報』では、国際社会に羽ばたける医療人の育成のため「英語」、「医療人のための英語」、「英語コミュニケーション」、「中国語」、「フランス語」を開設する。また、昨今の情報化社会において、医療現場におけるコンピュータの役割を理解し、医療業務や医学研究において必要となる情報を適切に処理できるよう「情報科学」、「医療情報学」を開設する。

『医学教養』では、医療人としての豊かな感性と倫理観を「キャリアデザイン」、「医学概論」、「医療面接法」にて学ぶ。また、本学の特徴である東洋医学に関する授業科目として、「統合医療概論」を開設する。「関係法規」、「柔道整復師法」では、柔道整復師に必要な法規を学び、社会的規範を養う。

② 専門系科目

専門系科目では、『柔道整復と柔道』、『現代医学』、『柔道整復学』、『実践整復学』、『健康とスポーツケア』および『卒業研究』に区分し、高度な専門性を備え、優れた知識・技術を持った柔道整復師を育成するとともに柔道整復学の学術研究の進展への寄与並びに社会への貢献を志向できるよう、次の科目を配置する。

『柔道整復と柔道』では、柔道整復師が柔道の素養を身につけるため必修科目として「柔道Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」を開設する。

『現代医学』では、柔道整復師が必要とする医学的知識を1年次から3年次を中心に身に付け、段階的に柔道整復学領域への移行を行う。「運動器系人体構造学」、「神経系人体構造学」、「内臓系人体構造学」、「人体の構造実習」、「動物性人体機能学Ⅰ，Ⅱ」、「植物性人体機能学Ⅰ，Ⅱ」、「人体の機能実習」、「運動学」、「病理学」、「衛生・公衆衛生学」、「免疫学」、「感染症学」、「生化学」、「分子生物学」、「薬物療法学」を学修し、人体の構造・機能や疾病などに関する知識を修得する。2年次からは、柔道整復師に必要な臨床医学の知識を修得するため、「診断学総論」、「内科学」、「外科学概論」、「麻酔科学概論」、「脳

神経外科学概論」「臨床医学特論」「整形外科学総論」「整形外科学各論」「リハビリテーション医学」を学修し、傷病観察、疾病の病態、診断、処置、リハビリテーションについての知識を修得する。

『柔道整復学』では、柔道整復の基本的な医学知識理解のために1年次に「柔道整復学入門」、「柔道整復師のための骨学・筋学」、「運動器外傷学発生学総論」、「体表解剖学」、「運動機能解剖学」を開設する。また、柔道整復学の基本となる科目として「整復学総論Ⅰ，Ⅱ」を開設する。柔道整復師の固定技術の基本となる科目として「包帯固定学」、「包帯学実習」、「固定学実習」を開設する。柔道整復学における臨床的な医学知識と技術を、「整復学Ⅰ～Ⅵ」、「整復学Ⅰ～Ⅵ実習」、「物理療法学演習」、「後療法技術学演習」、「関節評価法」、「関節評価法実習」の科目を通して学ぶ。さらに柔道整復師として骨折、脱臼、軟部組織損傷を幅広く施術できるよう4年次に「臨床シミュレーション実習Ⅰ，Ⅱ」、「運動器外傷学」を通して知識と技能を身につける。3年次後期からは、これまで学んだ現代医学、柔道整復学の復習科目として総合演習、基礎系総合演習、臨床系総合演習を開設する。さらに、3年次後期からはこれまで学んだ現代医学を臨床現場で学ぶため「附属病院実習」を開設しさらに4年次には「学外臨床実習」を通して柔道整復師の臨床的な知識と技能を深める。

『実践整復学』では、柔道整復学の知識を基礎としてさらなる応用的な知識と技術を修得するために「実践整復学Ⅰ～Ⅳ」、「徒手療法学総論」、「徒手療法学各論Ⅰ，Ⅱ」、「運動器画像観察実習」、「傷害鑑別診断学」を開設する。「機能解剖学実習」、「日常生活動作演習」では、身体の構造特性を把握し、患者の介助や機能回復を図るための知識と技能を学ぶ。「伝承整復術演習」は、現代における柔道整復術につながる伝統的な技能を学び、技術の裾野を広げるための科目として開設する。「接骨院経営学概論」では、将来的に接骨院を開業し、経営するための必要な知識、経済的な観念を学ぶ。

『健康とスポーツケア』では柔道整復師が健康・スポーツ分野における知識、技能を習得し、プロ、アマチュアスポーツ、生涯スポーツなどの選手にケアや指導を行うために必要な科目を配置する。様々なスポーツの特性を理解するために、1～3年次で「エアロビック運動実習Ⅰ～Ⅳ」、「フィールドワーク実習」を開設する。スポーツにおける社会的な意義、スポーツにおける心理的な側面、スポーツにおける身体的な影響などを学ぶために「健康科学」「スポーツと社会」、「スポーツ心理学」、「スポーツ生理学」、「スポーツと保健栄養学」、「スポーツバイオメカニクス」を開設する。スポーツや健康運動における各種トレーニングの知識、技能、指導方法を修得するために「トレーニング論」、「トレーニング実習」、「スポーツ指導論」、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ，Ⅱ」を開設する。柔道整復師としてスポーツ障害、スポーツ外傷における予防とその処置、ケア方法、リハビリテーションに関する知識を修得するために「スポーツ医学基礎」、「スポーツ医学応用」、「臨床セミナー」、「スポーツ柔道整復学」、「スポーツ柔道整復学実習」、「アスレチックリハビリテーション」、「アスレチックリハビリテーション実習」、「応急救急処置実習」、「スポーツ外傷応急救急処置実習」を開設する。「生活習慣病とその予防」では、スポーツ・運動によって予防

できる生活習慣病について理解を深める。

『卒業研究』では、3年次後期から4年次前期に「卒業研究Ⅰ，Ⅱ」を配置し、指導教員のもとで研究テーマを個人もしくはグループで定め、実験，研究，調査，あるいは文献講読，症例研究など様々な方法を用いて研究し、卒業論文としてまとめる。

保健医療学部柔道整復学科のアドミッション・ポリシー

明治国際医療大学は、『“和の精神”を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会に貢献できる医療人を育成する』という建学の精神のもとに、保健医療の分野で国民の健康と福祉に寄与することのできる“実践力ある心豊かな医療人”の育成を目指しています。

本学ではこの目標に向け、①豊かな人間性、②東西両医学を有機的に関連づける実践力、③保健・医療・福祉の発展に寄与する能力を備え、④医療の国際化に対応しながら地域の特性を踏まえて社会貢献ができる優秀な人材の育成を指針としています。

また、全学部共通として自己を律する心、他者を気遣う心、コミュニケーション能力、さらに生涯学び続けようという強い意欲を持つ人を求めています。

柔道整復学科の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学科では次の資質を有する者を求める。

1. 豊かな人間性を有し、自らを高める意欲を持つ人
2. 人々の健康に資するため、柔道整復の高度な専門知識と優れた治療技術の修得に積極的に努力する人

入学までに身につけてほしいこと

入学後の教養系教育及び専門系教育に十分に対応できる資質として、高等学校等での教科科目に関しては、下記の(1)～(4)を入学時まで修得しておくことが求められます。

教 科	内 容
(1)国 語	様々な文章（特に論理的な文章）を読み解く能力及び考え方を深め自ら進んで表現しようとする態度
(2)英 語	基礎的な読解力と表現力及び英語でコミュニケーションを図ろうとする態度
(3)数 学	基本的な数学の知識と技法を習得し、論理的な思考を展開できる
(4)理 科	「生物基礎」の内容の理解と基礎的応用力（加えて「生物」「化学」及び「物理」を学んでおくことが望ましい）